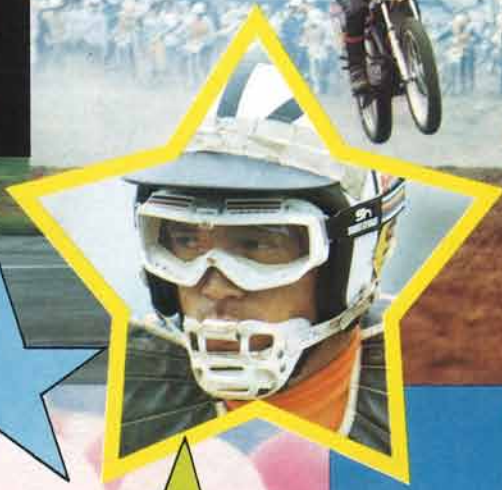




# ヤマハニュース

YAMAHA NEWS 1972 号外

## ヤマハ グランド スポーツ フェスティバル



# YAMAHA GRAND SPORTS FESTIVAL



# ありがとう!ヤマハ

# YGSF



## \* スポーツレジャーの発展に貢献

「第1回ヤマハ・グランド・スポーツ・フェスティバル」が予想以上の成功を取めたことを、皆様とともに喜びたいと思います。この行事が、健全なスポーツレジャーの発展に果たした役割は大きいものと確信いたします。

モトクロス、ロードレース、カートレースを合わせて、出場選手が延べ1,400人を数えたことは、モーターサイクルスポーツ愛好者の層の厚さを物語るものであり、喜ばしい限りです。

皆様のご尽力を感謝いたします。

## \* ヤマハグループの結束が光る

YGSFの成功を非常に喜ばしく思います。競技に参加するもの、観戦するもの、みんなの気持がピッタリ合っ  
てこそ、あれだけの盛り上がりが見られたのでしょ  
う。ユーザー、販売店、メーカーの結束の強さと、ヤマハの底力をあらためて認識しました。

「ヤマハ・グランド・スポーツ・フェスティバル」に寄せるヤングの関心が非常に高かったことは、われわれモータースポーツの普及活動にたずさわるものにとって、心強いものがあります。

来年もまた、皆様のご協力のもとに、一層盛大な行事に育てていきたいものです。



YGSF競技総監督  
(モトクロス部門)

**野口 種晴**

(野口モータース=横浜市)



YGSF競技総監督  
(ロードレース部門)

**片山 義美**

(TRショップ片山マツダ・  
ヤマハスポーツコーナー=神戸市)

# 富士に競う YGSF COLOR HIGHLIGHT 若者たち

★ モータースポーツの ★

ヤマハ グランド スポーツ フェスティバル



北海道から沖縄まで、全国11ブロックの精鋭の者、804名を集めて行なわれた「レール杯」第1年トクロス選手権大会。



現役セニアがピットマンをつとめ、大先輩の力走にサインを送る、なごやかなOBレースのひとこま。



カートレースも登場。フォーミュラーカーばりのレースぶりが大いに人気を呼んだ。



セレモニーにひきつづいてはOBレース。ヤマハの栄光の歴史を築いてきた名選手が、FX50を駆って名勝負?を再現。



フェスティバルも最高潮に達した6日午前11時から、フィスコのグランドスタンドを埋めつくした4万3千人の観衆を前に、盛大にフェスティバルセレモニーが行なわれた。

1400人にもものぼる出場選手が、地方別に色わけされたユニフォームで入場行進をくりひろげ、拍手と歓声の中ではなやかにフェスティバルの開幕だ!



YGSF杯を賭けて争われたロードレース「スポーツはヤマハ」を強烈に印象づけたヤマハスポーツの快走。そして若

いライダーたちのめざましい走りっぷりが、洋々たるオートバイスポーツの未来を示していた。

# YGSF COLOR HIGHLIGHT

競技運営の要所にはOBライダーが当り、各競技ともスムーズにプログラムは進んでいく。写真はモトクロスの運営委員長として大ハッスルの荒井市次選手。



晴れの全国大会に地区代表の選手たちは、大いに燃えた。これはまた関西ブロック同志のモーレツなデッドヒート。

さすが各ブロックの代表選手たち、ずい所に展開されるハイテクニクが、シリーズ戦の充実ぶりを物語っていた。

# スポーツレジャーの祭典

祝第1回Y.G.S.F.杯争奪ロードレース選手権大会

# はなやがに幕開く!

テーブル

祝第1回Y.G.S.F.杯争奪ロードレース選手権大会

祝第1回Y.G.S.F.杯争奪ロードレース選手権大会

「第1回ヤマハグランドスポーツフェスティバル」は、八月五日、六日の二日間、富士スピードウェイならびに箱根園に、延べ七万五千余の参加者を集めて盛大に開催された。真夏の太陽の下を、北海道から、そしてはるばる沖縄から、オートバイで、バスで、あるいは列車を乗りついで、全国各地からやってきたヤングたち。競技に参加する人も、応援する人も、スポーツレジャーを愛する心が、みんなを富士へと駆りたてたのだ。

ヤングばかりではない。モータースポーツの播らん期を築いた往年の名選手たちも、そして現在、モータースポーツの普及に努力しているヤマハ販売店のみなさんも、この行事を成功に導くために、大挙して会場に参集した。

五日は芦の湖畔・箱根園に人気バンドが競演するミュージック・イン・ヤマハ。六日はトレイル杯争奪モトクロス選手権大会、Y.G.S.F.杯争奪ロードレース選手権大会、

Y.G.S.F.杯争奪カートレース選手権大会の決勝の火ぶたが切られた。

また会場には、各種交通安全教室や、ヤマハ全製品展示コーナーをはじめとする盛り沢山のコーナーが開設され、フェスティバルを一層、活気あるものにした。

この日の太陽のように明るいスポーツレジャーの祭典をつうじて、ユーザー、販売店のみなさん、そしてメーカーを結ぶさすなが、一層、強まっていくのが感じられた。



# 友愛と 闘志を胸に

★★★★★

## 大会セレモニー



全参加選手を代表して、ロードレースの第一人者・本橋明泰選手が、力強い選手宣誓。



セレモニーのトップを切って、TX750からFX50までのスポーツツシリーズにロードレースの、またMXシリーズ、トレールシリーズにモトクロス、のセニア選手がそれぞれまたがって入場行進をくりひろげた。



大会セレモニーは、六日午前十一時、富士スピードウェイのメインスタンド前に関係者全員を集めて行なわれた。  
スタンドを埋めつくした四万三千の大観衆。コースをはさんで、表彰台の上、ピットの前には、オレンジ色のユニフォームの役員たちが居並ぶ。

ときおり、秀麗な富士が姿を見せる夏の空一杯に、YGSFの開催を祝すアドバリンが、花のように咲き乱れている。

突如、エンジンの排気音がコースにひびき渡る。ヤマハセニアライダーの入場だ。ヤマハスポーツに乗ったロードレースのスターたち、ヤマハトレールに乗ったモトクロススターたちが、メインスタンドの前に整然と並び、歓声にこたえて、一人ずつ手を上げる。

爆音が、軽快なマーチに変わった。バトンガールズを先頭に、学生プラスバンド、日の丸やYGSF旗を掲げた少女たち、そしてモトクロス選手団たちがやってくる。

北海道、東北、関東A、関東B、関東C、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄。プロックごとに色分けしたユニフォームに、YAMAHAの文字があざやかだ。故郷の榮譽を荷なつて、みんな胸を張って行進する。

つづいてロードレース選手団の入場。観客の拍手が、また高くなった。



4万3千人に達する大観衆、1500名の選手を前に小池久雄大会会長のあいさつ。



セレモニーにひきつついて、エキジビジョンのOBレース。かつては浅間レースや世界GPレースで脚光を浴びた懐かしい顔が再び勢揃した。



濃いオレンジ色のつなぎ服に身を固めたOB選手団がヤマハFX50をつらねて、コースに入ってきた。富士登山レースに、あるいは浅間火山レースに活躍した往年の名選手たちだ。新旧のライダーが一堂に。まるでモータースポーツの歴史の縮図を見るようだ。

上島清介大会副会長（ヤマハ普及本部・本部長）が力強く、「第一回ヤマハグランドスポーツフェスティバル」の開会を宣言する。

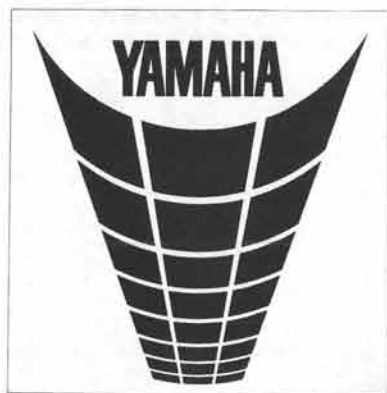
メインポールにスルスルと上る日の丸とYGSFの旗。

小池久雄大会会長（ヤマハ発動機専務取締役）が壇上に立って、大会の趣旨を述べ、選手たちの健闘を祝す。

これに应运え、ロードレース界のヒーロー、本橋明泰選手が、一同を代表して、正々堂々と闘うことを宣誓した。

大空にまい上る色とりどりの風船が、太陽の光を七色に変える。

ここに「第一回ヤマハグランドスポーツフェスティバル」が、はなばなしく、その幕を開けた。



ふるさとの栄誉を賭けて

# トレール杯争奪モトクロス選手権大会

トレール杯争奪モトクロス選手権大会は、前日の予選に引きつづき、六日、富士スピードウェイ・モトクロス場で、激戦の火ぶたを切った。

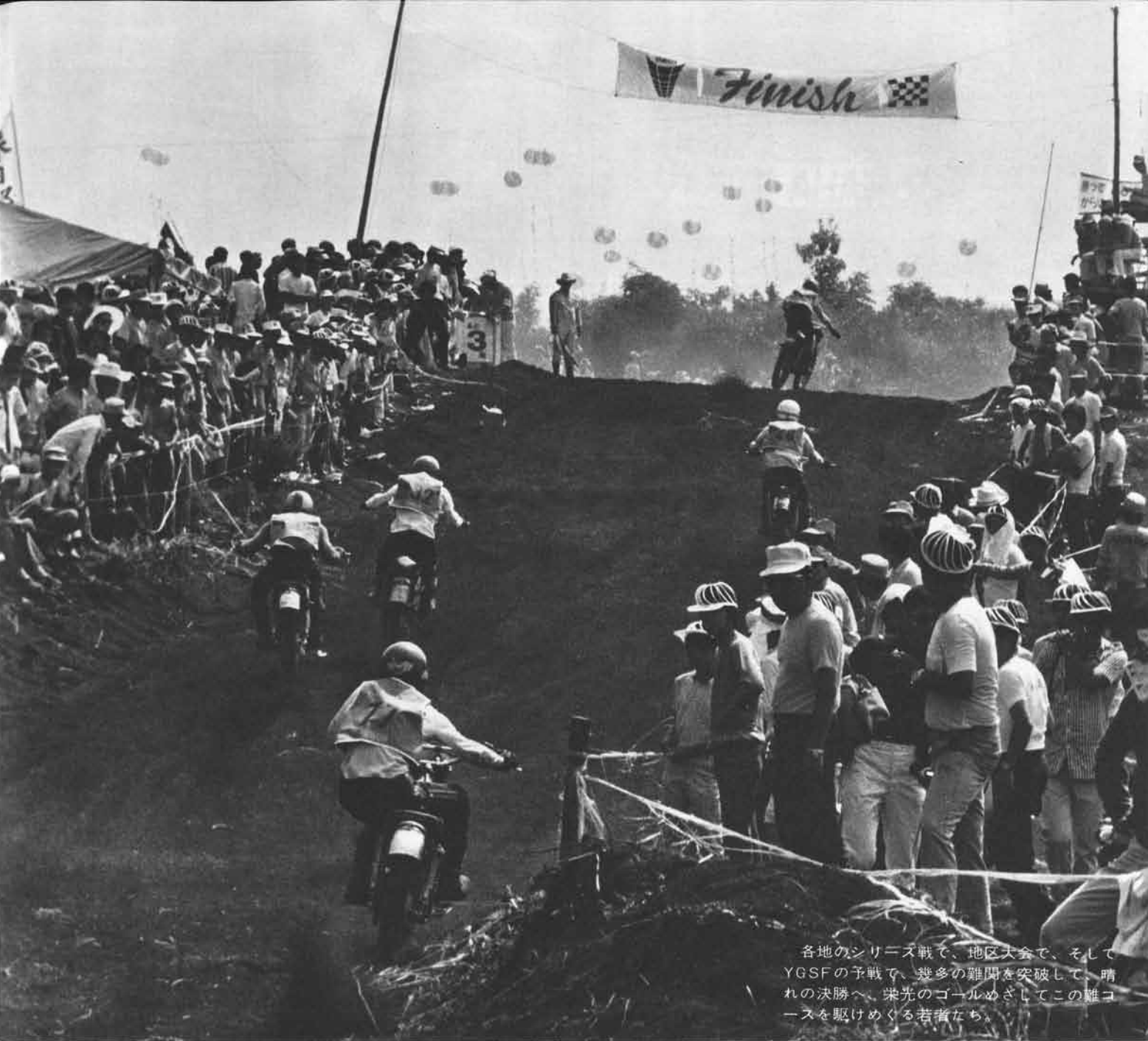
初春から、全国十一ブロックで展開されてきたトレール杯争奪モトクロス選手権シリーズの優秀選手が、ここに集まって覇を競うわけだ。選手はもちろん、北は北海道、南は沖縄からやってきた応援団もわきにわいた。ベテランも、ことし初めてモトクロスに参加した若武者もふるさとの栄誉を賭けて力走した。熱気と若さがあふれる、すばらしいレースがつづいた。





北海道から沖縄まで、11ブロックの若者が  
参集。ふるさとの榮譽を賭けて熱気と若さが  
ここ富士でぶつかりあう。





各地のシリーズ戦で、地区大会で、そしてYGSFの予戦で、幾多の難関を突破して、晴れの決勝へ、栄光のゴールめざしてこの難コースを駆けめぐる若者たち。

# カ一杯、 若さが激突

モトクロスコースに隣接して設けられたパドックは、二十張りをこす青一色のテントで花が咲いたようだった。

決勝出場を前にして、愛車の手入れにはげむもの、緊張をときほぐすための柔軟体操に勢を出すもの…。

「ここまでくるのは楽ではなかった」地元  
の強豪に打勝ち、トレール杯争奪選手権シリーズで総合六位までの成績を収めた選手だけが、栄えある全国大会に出場できる。しかも昨日の予戦で、その半数が涙をのんでいるのだ。

名実ともに全国から選りすぐられた精鋭によって、決戦の幕は切って落された。

ミニ50cc級レースでは、三十九才のベテラン、高見茂喜選手(九州)がもてるテクニクを存分に駆使して、優勝一番乗りを果たした。トレール杯争奪モトクロス選手権シリーズがきっかけとなって、ことし初めてモトクロ

# トール杯争奪モトクロス選手権大会



▲ 大空に舞う激励のノボリには、自然にアクセルも開いてくるといふもの。(関西、中国ブロック)

▲ コースマーシャルに、救護係に、はてまた模擬レースにと大活躍をみせるセニアライダー。彼らの走りには、参加選手までが、くいているような視線を送っていた。

スに参加し、頭角を現わした選手も目立つ。とくにミニレース、市販車レースが、モトクロス人口の増大に役立った。

往年のモトクロスの王者、荒井市次選手が競技運営委員長を兼ねて、スターティング・フラッグを握れば、記録委員長、元GPライダーの長谷川弘選手がチェッカー・フラッグを握る。

こういう先輩たちに暖かく見守られながら新進のライダーたちは、のびのびと走った。

鈴木忠男、鈴木秀明選手を始め、現役のセニアライダーの面々も、コースマーシャルとして、救護員として、縦横の活躍ぶり。しかも模範レースには、疲れを知らないダイナミックな妙技を披露してくれた。

終始、若さと熱気が交錯する中で、レースは進行し、結局、川上杯は西尾雅仁(ノービス)木原泰久(ジュニア)佐藤秀行(エキスパートジュニア)の各選手が獲得するところとなった。

最高殊勲選手賞は田中豊繁(ミニ)渡辺仁(市販車)星野正博(ノービス)平山仁文(ジュニア)日下哲也(エキスパートジュニア)の各選手の手。

そして敢闘賞は、はるばる沖縄から参加して、ジュニア90ccクラスに健闘した伊智肇選手に贈られた。

ブロック優勝は、得点94点をもって、関東Aブロック(東京、神奈川、山梨、千葉と埼玉の一部)に決まった。



走りにくいといわれる火山灰のコースを、ミニで、スタンダードで、モトクロスラーで思いっきり走りまわる各地の代表に、観衆も大声援を送る



▲ 各ブロックごとに設けられたバドック。立ちならふテントの中では選手がマシン調整に余念がない、それを横目に観衆の人波は会場へ……。



セニアレースでは、ヤマハセニアがモトクロス  
の真髄を披露。豪快な走りは鈴木忠男選手。



▲ レースの前の開会式。全国の精鋭たちを前に小宮営業部長があいさつ。



めいぐるみ人形までとび出して、こちらはなごやかムードの応援団（関東ブロック）



▲ 「ウーム」とはやくもレース前からトロフィーとニラメッコの選手たち。大トロフィーのかずかず、ますますファイトが沸いてくるようだ。



赤い帽子に、白いシャツ、そして赤いミニとおそろいのいでたちで、黄色い声援を送るのは関西・中国ブロックの三人娘。

トレール杯争奪モトクロス選手権大会

成績表

《ジュニア 250ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	木原泰久	関東A
2	葛西恒夫	北海道
3	以西正春	四国
4	松任谷隆光	関西
5	伊藤隆	中部
6	若林孝明	"

《ノービス90ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	斉藤克己	関東C
2	沢辺和秀	九州
3	松川宏雄	中国
4	藤村広昭	"
5	宮本英治	関東C
6	山本義明	中国

《ジュニアオープンクラス》

順位	氏名	ブロック
1	木原泰久	関東A
2	吉原明正	"
3	伊藤隆	中部
4	大塚重雄	関東C
5	熊谷義貞	関東B
6	加藤栄重	東北

《ノービス125ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	坂井富士男	関東A
2	斉藤克己	関東C
3	小林信明	中国
4	内原孝志	"
5	中原良人	関東A
6	八木茂	"

《ミニ50ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	高見茂喜	九州
2	青木隆一	関東C
3	富田義雄	"
4	天間広美	東北
5	若木泰一	中国
6	染谷イサヨ	関東C

《エキスパートジュニア 125ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	長島誠一	関東A
2	本間誠治	"
3	桶田進一	北海道
4	天馬広美	東北
5	巻口規雄	関東C
6	前川和範	九州

《ノービス250ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	西尾雅仁	関西
2	末永初弘	九州
3	中野直人	関東A
4	小林信明	中国
5	五十嵐聖治	北海道
6	内原孝志	中国

《ミニ60ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	梅崎正弘	東北
2	浦上正芳	中部
3	井上明	関西
4	坂井邦宏	中部
5	五十嵐俊博	東北
6	金見勉	北海道

《エキスパートジュニア 250ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	伊藤秀行	北海道
2	辻泰利	四国
3	古田哲郎	関東A
4	日下哲也	北海道
5	北条広美	東北
6	藤田勝美	関西

《ノービスオープンクラス》

順位	氏名	ブロック
1	西尾雅仁	関西
2	末永初弘	九州
3	森国竜治	関西
4	内原孝志	中国
5	星野正博	東北
6	中野直人	関東A

《市販車 100cc以下クラス》

順位	氏名	ブロック
1	佐藤隆	関東A
2	北村隆資	関東B
3	蜘蛛稔	中部
4	渡辺仁	"
5	菅原雅之	関東A
6	川出武	関東C

《エキスパートジュニアオープンクラス》

順位	氏名	ブロック
1	桶田進	北海道
2	五江渕聡	関東A
3	佐藤秀行	北海道
4	本間誠治	関東A
5	天間広美	東北
6	吉田哲郎	関東A

《ジュニア90ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	原田実	関東B
2	村田隆良	中部
3	黒田和重	"
4	須田信行	関東C
5	平山仁文	関東B
6	深谷高政	関西

《市販車 101cc以上クラス》

順位	氏名	ブロック
1	田中義行	関東A
2	岸井正博	"
3	矢田和夫	関西
4	高橋清彦	東北
5	高田寛	関東A
6	峰岸重明	"

《セニア 250ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	鈴木秀明	
2	鈴木都良夫	
3	瀬尾勝彦	
4	小林光広	
5	鈴木忠男	
6	杉尾良文	

《ジュニア 125ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	吉原明正	関東A
2	平山仁文	"
3	島崎正己	"
4	大塚重雄	"
5	花城清友	関西
6	葛巻恒夫	東北

《ノービス50ccクラス》

順位	氏名	ブロック
1	山口紀夫	関東C
2	木原勤一	中部
3	矢田正博	"
4	照井清	東北
5	中川栄司	北海道
6	戸山明夫	関西

# 華麗なる力走

# YGSF杯争奪ロードレース選手権大会



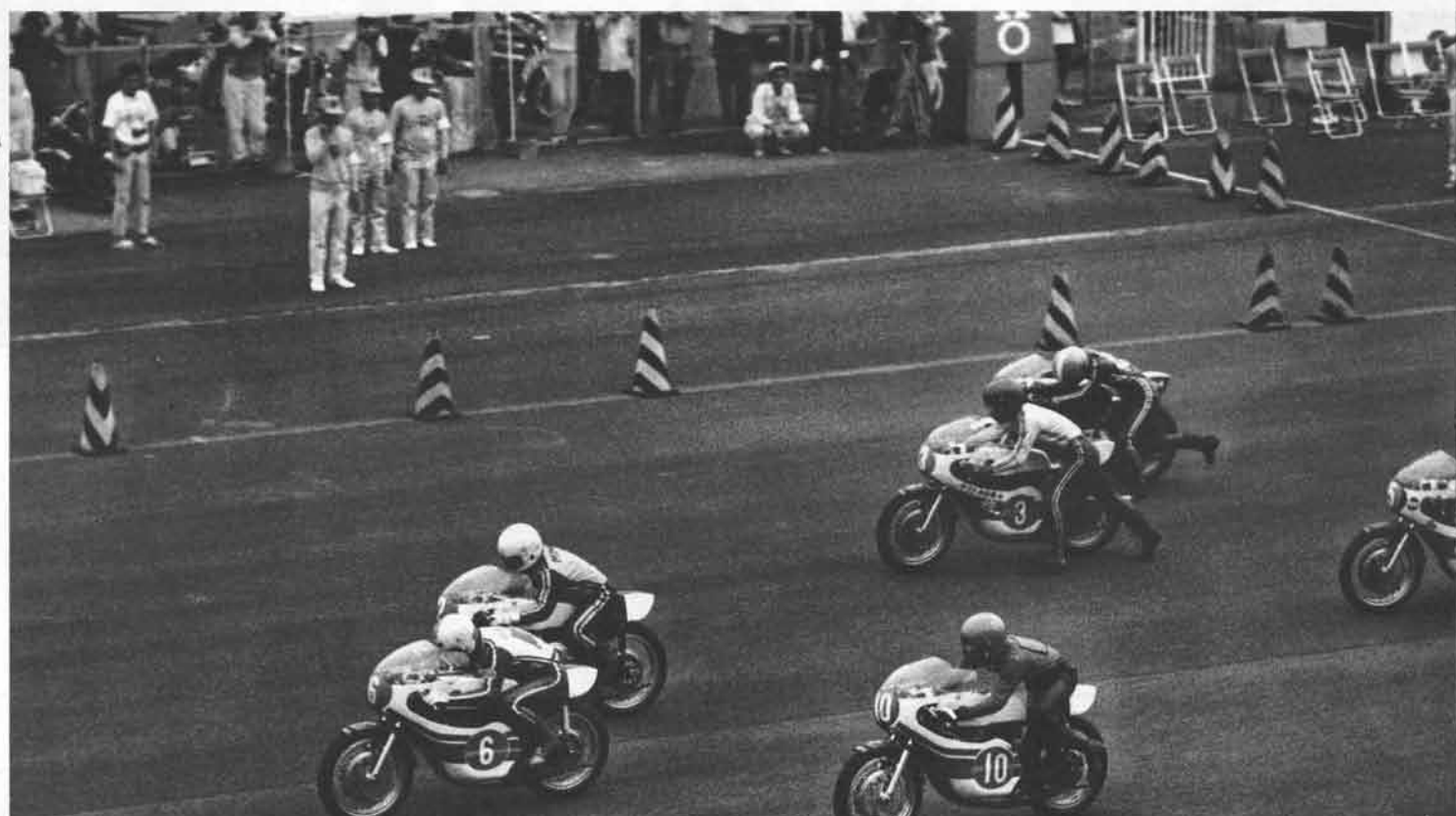
参加じつに 327 台、まさに圧倒的な迫力を存分に見せつけたYGSF杯争奪ロードレース選手権大会であった。



メインスタンドにあふれる大観衆を前に、スターティングポジションに並んだレーサー群は、誇らしげな排気音を一齐にとどろかせた。エントリー三百二十七台。これだけたくさんの精鋭が、ここ富士スピードウェイで覇を競ったことが、いまだかつてあつただろうか。YGSF杯争奪ロードレース選手権大会の決勝は、六日の午前八時から開始された。

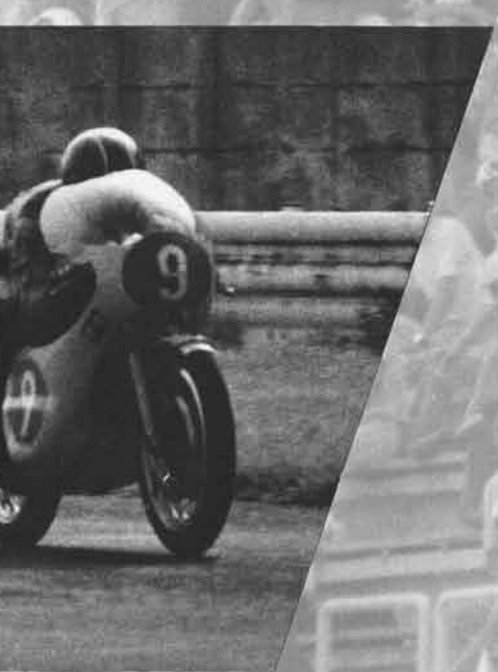
ヤマハグラندスポーツフェスティバルには、日本のすみずみからモータースポーツの愛好者が集まっているため、初めてロードレースの迫力を目のあたりにする人も多く、終始、熱っぽい視線に見守られて、選手たちも手ごたえのある好レースをくりひろげた。





ロードレース最大の見どころであった「YGSF杯争奪グランプリレース」は、日本の代表的ライダーが大出場。かつての世界選手権ロードレースGPを思い起こさせるようであった。ヨーロッパ帰りの金谷選手の快走、スタートで出遅れた本橋選手の猛追、まさにロードレースのダイゴ味をあますところなく披露してくれた。

今年前半を世界選手権ロードレースGPで走りまわり、西ドイツGPでの優勝はじめ、好成績を残してきた金谷選手。帰国後初のレース・YGSFでもその速さを存分に見せつけ川上賞を手にして大喜び、二位の河崎裕之（左）、三位の本橋明泰（右）選手ともども健闘をたたえあっていた。



# 女性ライダーに

## 敢闘賞!!

モータースポーツの底辺を上げたい……この大会の狙いは、トレーブル杯争奪選手権シリーズ同様に、成功を見た。

はじめてロードレースに参加するライダーを含めて、ノービス部門の出場者が、驚異的ともいえるほどに多かったからだ。

世界のロードレース界で、もつとも人気があり、もつとも強いヤマハ。

そのヤマハを思い思いにチューンアップし、好きなカラーのカウリングで装い、晴れの舞台にのぞむ選手たち。その表情は明るく、生き生きとしている。

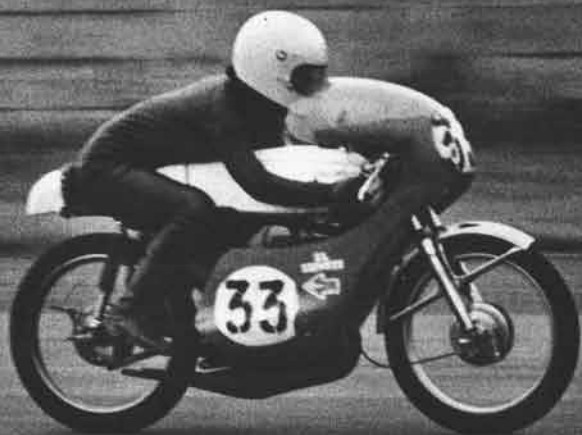
かつて、モータースポーツの夜明けに活躍した往年の名ライダーたちが、競技役員として、あるいはパドックの一員として、喜々として、この催しに参画している。

軽快な排気音をひいて、ノービスも走り、ジュニアも走り、そして日本を代表するセニアライダーもカ一杯走った。

日本で初めてのロードレースといわれる浅間高原レースが開かれてから早くも十七年。モータースポーツの花が、今日、大きく咲きほこったという感じだった。

激戦の結果、川上杯は、莊利光（ノービス）

# YGSP杯争奪ロードレース選手権大会



モータースポーツは男性だけのものじゃない。AX125改造レーサー・ゼッケン③は、佐々木エリ子さん、心からスピードを楽しむ彼女の姿がすがすがしい。

- ▼ ライダーは仲間の代表、ピットを埋めた仲間たちの声援を一身に受けてひた走る。健全なモータースポーツの姿ここにありだ！



晴れの舞台で日頃の実力をフルに発揮する若者たち。各クラスともごらんのようなデッドヒートの続出であった。



- ▼ 持ちきれぬほどの賞品を手に表彰台から下りてきた彼を待っていたのは、彼女と仲間。仲間のカメラにおさまって、きっと一生の思い出として残ることだろう。



大本十生（ジュニア）輝井嶂（エキスパートジュニア）金谷秀夫（セニア）の各選手の上に輝いた。最高殊勲選手賞は矢島満十雄（ノービス）川田清（ジュニア）青木辰己（エキスパートジュニア）小田豊（セニア）の各選手に。  
そして敢闘賞は、次郎長ライダー（静岡）の八人の仲間とともに出場した、ただ一人の女性ライダー、佐々木エリ子選手に贈られた。ロードレースを始めて三カ月。自己のペースを守って、見事チエッカー旗を受けた明るい娘さんである。

# スリルを呼ぶコーナーリング

## YGSF杯争奪カートレース選手権大会

YGSF杯争奪カートレース選手権大会は六日、ロードレースと同じ、富士スピードウェイ・ショートコースで、二ヒートにわたって熱戦を展開した。

ピストンバルブ式100cc汎用エンジンを搭載したクラスA1、クラスA2。カート専用100ccエンジンを使用したクラスB。125ccエンジンつきのクラスC。200cc級のクラスD。250cc級のクラスE。それぞれチューニング技術の粋をこらしたレーシングカート百台が、大方の予想を上回るスリリングなレース展開を見せた。

ギリギリに軽量化されたムキ出しの車体。パワーアップされたエンジン。百数十キロのスピードで直線コースを走り、大きく上体を傾けながら、コーナーへ突入する。デフのない後輪がきしり、外側へ流れる。

十二才から参加できる異色のモータースポーツ。ダイナミックなレース展開に目を見はる観客の表情からも、カートレースの今後の発展が期待できそうだ。

各レースとも火花を散らす激戦の結果、チャンピオンが決定したが、クラスA1で第一ヒート一位、第二ヒート二位という好成績で

優勝した北村恵市選手に川上杯が贈られ、最高殊勲選手は、D、Eオープンクラスで第一ヒート二位、第二ヒート一位で優勝した安岡信一選手に決まった。

カートレースの紅一点、野田加代子選手は、上位を走りながらもガス欠などのため入賞を逸したが、その健闘を認められて、敢闘賞を獲得。クラスA2に優勝した夫君の野田克選手とともに表彰台にのぼった。

カートが結ぶ縁で、ことし二月に結婚したばかりの、このおしどり選手に、ひときわ高い拍手がひびいた。





▲ 大観衆の中にはカートレースは初めて、という人も多かったろう。ロードレースとはまた一種異なったスリリングなレースぶりはYGSFでも人気のマトとなっていた。



▲ 後輪をスリップさせながらの独得なカートのコーナリングが、またスリリングなのだ。

カートレースの紅一点・野田加代子選手は、女性とはいえその速さは抜群。ご主人ともどもの大活躍で、みごと敢闘賞に輝いた。



▲ エンジンは何れも2サイクル。汎用エンジンやオートバイのエンジンが多い。12才からライセンスが取れる競技とあってビットも若さにあふれ、これからが楽しみなモータースポーツだ。

# YGSF杯争奪ロードレース選手権大会 成績表

《エキスパートジュニア 125ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	青木辰己	プレイメイトRT
2	吉川佳男	チーム永楽
3	熊野正人	スハラレーシング コンパニオンズ
4	武部 衡	スポーツライダーズ
5	安田孝男	S.S、RT
6		

《ジュニア90ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	大本十生	神戸木の実
2	大庭太一	御殿場サイクロンC
3	堤 仁志	ダブルイーグル
4	杉山 進	清水ハリケーンRC
5	植松 嵩	ウエマツRT
6	鈴木章夫	茅ヶ崎ファルコンC

《ノービス50ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	古橋 保	
2	大庭 公一	御殿場サイクロンC
3	紫田 幸弘	シバタレーシング
4	小つぼ 勝喜	
5	森田 勝	多摩モーター スポーツC
6		

《エキスパートジュニア 250ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	松村道夫	J.S、R
2	小塚法征	プレイメイトR
3	永井 宏	オートルーキーRC

《ジュニア 125ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	平野芳男	浜松SR
2	芹沢正明	御殿場サイクロンC
3	金田光治	シバタRT
4	毛利良一	神戸木の実
5	坪井文夫	ハタノマッキン レーRC
6	細田 武	ナカRT

《ノービス90ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	石井康夫	プレストMRC
2	小川共之	
3	西谷浩司	
4	城腰 斉	ウエマツRC
5	山崎茂武	ナカRT
6		

《エキスパートジュニア 251cc以上クラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	輝井 嶂	
2		
3		

《ジュニア 250ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	紫谷正昭	神戸木の実
2	山田 実	多摩ライダー
3	斎藤 保	アサダレーシング
4	堤 仁志	ダブルイーグル
5		
6		

《ノービス 125ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	矢島満千男	矢島RT
2	吉田 一夫	チームM.S.R
3	高橋 保	山田RT
4	山中 一夫	プレストMRC
5	森田規之	
6	加藤敏彦	

《セニア 125ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	小田 豊	プレイメイトRT
2	大脇俊夫	"
3	江崎 正	R、T神戸

《ジュニア 251cc以上クラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	川田 清	小田原キャッスルR
2	大木十生	神戸木の実
3	矢島世千男	矢島RT
4	平塚孝夫	ダブルイーグル
5	山田 実	T、MSR
6	大沢俊之	

《ノービス 250ccクラス》		
順位	氏名	クラブ名
1	荘 利光	
2	浅井勝義	次郎長ライダーズ
3	岡本 誌憲	神戸木の実
4	荒木 博	ジュニアSR
5	文原光彦	浜松SR
6	黒沢健一	

《YGSF杯争奪グランプリレース》		
順位	氏名	クラブ名
1	金谷秀夫	スポーツライダーズ
2	河崎裕之	"
3	本橋明泰	"
4	三室恵義	"
5	浅見貞男	ワールドワイド モーターサイクル
6	大脇俊夫	プレイメイトRT

《クラスC》		
順位	氏名	得点
1	中森国夫	1200
2	楠田幸一	900
3	小泉幸正	674
4	高橋正夫	504

《クラスA2》		
順位	氏名	得点
1	野田 克	1050
2	酒井吉彦	1050
3	岡本澄人	589

## YGSF杯争奪カートレース選手権大会

# 成績表

《クラスD、Eオープン》		
順位	氏名	得点
1	安岡信一	1050
2	小泉好章	741
3	中倉広満	702
4	中谷忠道	589
5	池辺修次	378
6	横山義広	337

《クラスB》		
順位	氏名	得点
1	本橋年生	1200
2	棚田 博	900
3	松下 亮	441
4	村上 実	441
5	浅川幸夫	395
6	原 賢二	337

《クラスA1》		
順位	氏名	得点
1	北村恵市	1050
2	池谷利明	852
3	福丸修博	674
4	村上純一	639
5	国重 勉	252
6	山本義憲	199

# 音と光のファンタジー

## ミュージック・イン・ヤマハ

五日の夕刻、YGSF前夜祭「ミュージック・イン・ヤマハ」の開演を控えて、キャンプ場で知られる芦の湖畔・箱根園は、集まってきたヤングでふくれ上った。

ヤマハメイトのCMなどでおなじみのE・H・エリックと、佐々木葉子の軽妙な司会のもとに、人気バンドが演奏し、そして歌った。期待の新人、岩渕りり、高橋きよしも、ジャッキー吉川とブルーコメッツなどベテランに負けない拍手を浴びた。

ラジオDJ「ハローヤマハ2&4」で人気のある泉優二、平野文のコンビによる、セニア級ライターのインタビュアーなど、ハブニングもあって、会場は夜の更けるまで活気を呈していた。

昼間の暑さがウソのような箱根園に夜のどばりがおけると、若者の熱気の中「ミュージック・イン・ヤマハ」がオープン。



らくらくメイトのテレビCMでおなじみのE・H・エリックと佐々木葉子の軽妙な司会で、音と光の祭典がくりひろげられた。



モトクロスとロードレースのヤマハセニアが舞台の上からあいさつ。鈴木都良夫選手の「目標は世界！」には万場のかっさいが上がった。

# ってきた仲間たち



東名高速道路をひた走り、やっとフィスコへ。すてにあちこちに集まっている仲間たちとはやくも仲間意識が芽生えあう。



フィスコへ、YGSFへ、  
整然とマストツーリングを  
づけるのは多摩ヤマハナチ  
ュラルライダーズの一行。



YGSFは日本中のスポーツ・レジャーを愛する者の集い。それだけに、競技に直接参加しない人たちも、愛車を駆ってのツーリングやオートキャンプで、また遠方からはバスなどで、ぞくぞくと富士スピードウェイに集まってきた。スポーツ・レジャーには参加者も観衆もない、みんなそれぞれの方法で楽しんでいたものだ。





選手にとってもYGSFはめったにない交歓の場。モトクロスの大御所・鈴木忠男選手とロードのエース河崎裕之選手のこれはめずらしいシーン。そういえば忠さんは、かつてロードレースで優勝したこともあったっけ。

この夏のツーリングにはぜひYGSFを織込んで！という若者も多かった。札幌市の森田君もその一人。札幌からとんで来た。



TX750を駆ってYGSF一番乗りをめざしたのは、新潟県小千谷市の大淵君。長旅の疲れか、しばし愛車の上で仮眠。

ラジオ番組「ハローヤマハ2&4」で有名な泉優二、平野文コンビも、ミュージックイン・ヤマハからYGSF各会場とマイク片手に取材活動。来賓のヤマハインターナショナルCoのテリー・ティアナン氏からは「すばらしい企画だ、こんどはぜひアメリカのお客さまも参加させてインターナショナルなものにしたら……」なんて感想を頂戴していた。



遠距離からのSL会はバスを連らねてやってきた。手足をのぼして、「サー、レース場へ」



# お祭りの ムードが横いっぱい

\*\*\*\*\*

## 各種コーナー

メインスタンド前広場には、ヤマハ全製品展示コーナーをはじめ、バラエティに富んだ各種コーナーが軒を並べ、人びとを楽しませた。

ヤマハ全製品展示コーナーは、文字どおりオートバイからボート、セールボート、スノーモビルと、スポーツレジャーの世界をひろげるヤマハ製品がズラリ。はなやかで活気のあるショーを展開していた。

S.L.会員募集コーナーで、発展するS.L.活動の説明に熱心に聞き入るヤングたち。

オートバイなんでも相談コーナーで、ベテラン相談員の話に何度もうなずきかえすヤングたち。

アクセサリー、パーツ即売コーナーでは、カラフルな新製品に目をかがやかせる。いたるところで係員とのなごやかな交流の風景が

見られた。

セニアライダー・サインコーナーも人垣がビッシリ。本橋、三室、河崎、金谷の四人のスターライダーたちは、汗ビッシヨリでサインペンを走らせる。一枚百円の色紙が、飛ぶように売っていた。



▲オートバイでは話題のマシン、ヤマハスポーツTX750が人気のマト。ほんものはスバラシイ!



▲ セニアライダーサインコーナーでは、つめかけるファン  
のサインにペンを休める暇もないほどの人気。



▲ いろいろどりの催しでスポーツ・レジャーのすばらし  
さを満喫したお客さまは、さっそくSL会コーナーへ……。



▲ 豊富に取揃えられたアクセサリやパーツ  
の即売コーナーも人波の断えがけない。



▲ オートバイ・ファンに水辺や雪山のスポーツレジャ  
ーを……。はなやかなヤマハ全製品展示コーナー。



▲ 世界最強のプロダクションレーサーTD、TRを背に、ファン  
の記念写真におさまる、ロードレースのトップライダー。

# 安全運転教室



▲ 新たに自動二輪免許試験に採入れられた一本橋走行。すでに免許を持っている人たちも「もう一度ウデを確かめてみよう」とつぎつぎに参加。

◀ すでに免許を持っているお客さまに、正しい乗り方をマスターしていただく「ヤマハ安全運転教室」。日頃は全国の高校や職場で行なわれているが、今日はYGSFにつめかけた若者たちが受講生。まずは正しい乗り方から。

# スポーツ教室



一本橋走行の落輪じゃない。前輪だけを板にのせ、落差のある斜面の横断のテクニックだ。

◀ スポーツ教室は、特に最近注目を浴びているトライアルが中心。百聞は一見に……とはまさにこのこと。こんなにウマクったらスバラシ〜イだろうナ。

# 実力を大きく ひきのばす ヤマハ交通安全教室

「ヤマハ交通安全教室とは、こんなにも面白いものだったのか、」  
「安全」という言葉からは、ともすれば堅苦しいものを連想しがちだが、FISCO第四会場に設けられたヤマハ交通安全教室は、



参加するものにも見物するものにも興味ある催しだった。  
大月信和インストラクターの指導のもとに正しい運転の基本を学ぶ「ヤマハ安全運転教室」。オフロードにおける乗車姿勢から、ジャンプの仕方までを酒井奎吾インストラクターが指導する「トレール教室」  
そして、トライアルの第一人者トシ・ニシヤマが、四輪車の屋根をトレールで乗りこえるなどの妙技を披露して、観客に驚嘆の声をあげさせた「スポーツ教室」  
自己の運転技術の実力を試し、大きくひきのばしたとき、安全への確信もまた一歩前進する。「楽しさと安全」を絵にかいたような教室風景だった。



# トレール教室



▲ すでにおなじみのトレール教室。トレール杯を観戦して、さっそくこちらに飛んで来た若者も多かったとか……。



▲ 一見ベテラン風なのはMr.グルセンさん（33才）、横田基地のオートバイの先生で、どんなにウマイ兵隊さんでもこの人の安全講習を受けないと免許がもらえないそうだ。

今日は、YGSFの観戦、交通安全教室の視察にやって来て、トレール教室の楽しさについつい飛入りしてしまった。

▼ MR50にまたがって、トレール走行もちろん基本は正しい姿勢から。



# YGSF COLOR TOPICS



こりゃースゴイノトライアル・テクニックのものすこさを聞いてはいたけど……。DT 250改造トライアラーでフォルクスワーゲンを越えるのは、わが国トライアルの第一人者トシ・ニシヤマ選手。スポーツ教室で観衆のド胆を抜いていた。

フィスコ・グランドスタンド下はフルライン・ヤマハ展示コーナー。ヨット、ボート、スノーモビルがメイト、スポーツ、トレールとともに展示され、「オールシーズン、オールヤマハ」若者たちのSLの世界を拡げていた。





「ゼツケン⑧、イケ、イケ」のサインを送るのには、GPライダー長谷川弘選手。チョーさんみたいなビットマンにサイン出されたらイヤでもアクセルは開められまい。



こんなつかしい姿が飛び出すのもOBレースならではの。でも、車から荷物がこんなにハミ出したら赤旗つけなきゃ……。

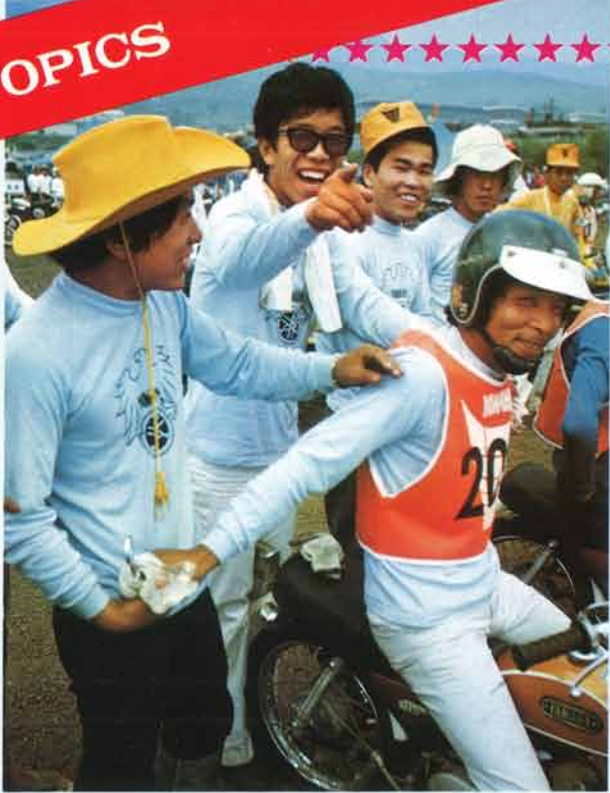


ヤングダンサーズが躍動する若者の姿を……

芦ノ湖を囲む山々に若人の歓声がこだまして、前夜祭「ミュージック・イン・ヤマハ」のオープン。



YGSE COLOR TOPICS

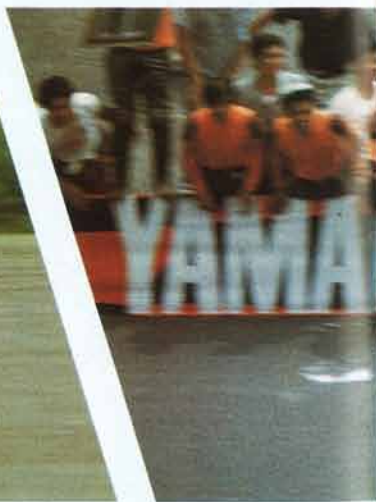


マシンばかりじゃない、ライダーの整備もメカの仕事。肩をほぐしてガンバレヨ!

ロードレースの紅一点はノービス25ccクラスに出場した佐々木エリ子さん(静岡県清水市・次郎長ライダーズ)。



これがカートのベストフォーム。ハンドルは飛行機タイプ、デフがないからタイヤをスリップさせてコーナをまわる。



ときに激しく、ときには静かに真夏の夜の祭典はつづく。(舞台はペドロ&カプリシャス)



花火もあがり、まさにムードは最高潮。



きらめくライトに照らされて若い歌声が上がり……

YGSF COLOR TOPICS



フェスティバルは総合表彰式で閉幕。1メートル以上もある川上杯を手にする最優秀選手の顔に、また健斗をたたえあう選手、役員の顔に、“また来年も……”の笑みがあふれていた。



カネと太鼓のけたたましい応援団は関東ブロック。おかげでミニもしごく快調。



こんなに応援されたんじゃ、ホント負けちゃ帰れない。



九州ブロックの仲間たちは、そろいのポンチョでやってきた。



観衆は夜の更けるのも忘れて若人の集いにひたっていた。



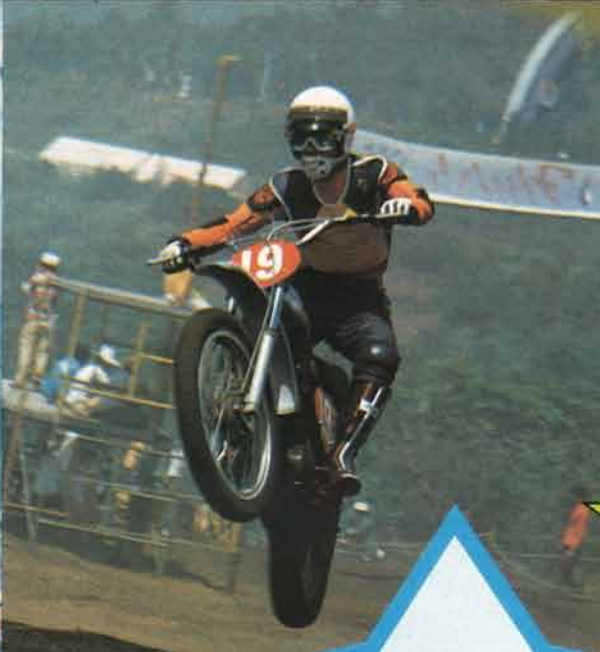
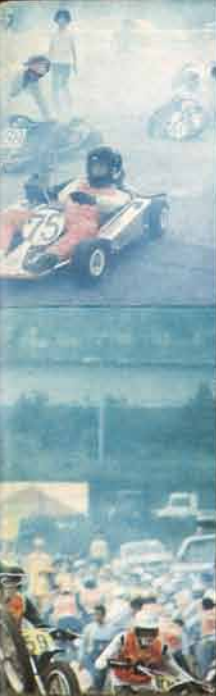
岩淵リリの澄んだ歌声が会場に流れる。

# ブロック優勝の栄冠 関東A地区に輝く

総合得点94ノトレール杯争奪モトクロス選手権大会・ブロック優勝の栄誉は関東Aブロックの頭上に輝いた。小池久雄大会会長の手から、優勝旗が伴野喜代三郎東京支店長に渡される。盛大にわき上げる拍手。好敵手の健闘を心からたたえる選手たちだ。来年こそは！早くも静かな闘志がわき立ってくる。



また来年、**YGCSF**の旗の下で!



ヤマハニュース号外  
 ・昭和47年9月1日発行  
 ・発行所：ヤマハ発動機株式会社  
 ・静岡県磐田市新貝2500  
 ・発行人：小池久雄

